# 旅の図書館 掲示板

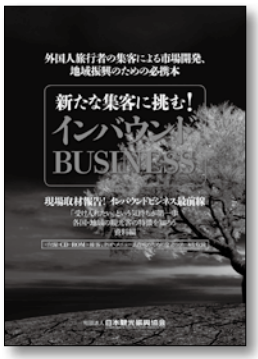
## 新着図書紹介

全国各地で観光を通じた地域振興の取り組みが進むなか、町の歴史を伝える土蔵も貴重な観光資源として脚光を浴びる時代を迎えている。喜多方市や栃木市、川越市などにおける近年の取り組みは、地元の風土や歴史の上に成り立つ生業（なりわい）や暮らしこそが、地域観光の原点であることを思い知らされる。

『京都土壁案内』（塚本由晴・森田一弥著、学芸出版社）は、書名の通り、京都の町を歩きながら、寺社や茶室から土塀に至るまで、長い歴史を刻んできた土壁の魅力をひもとく京都の建築・街歩きガイドだ。東本願寺のなまこ壁や京都御所の筋塀、祇園・一力亭の赤土壁などとともに、下御霊神社の土蔵についても丁寧に説明されている。聚楽（じゅらく）土、稲荷山黄土、九条土、桃山土、浅葱（あさぎ）土、錆（さび）土など、豊かな土に恵まれた京都ならではのユニークな土壁文化を知ることは、各地で土蔵を見る楽しみも深めてくれそうだ。（挑全）

A5判　144ページ
定価　1,900円
学芸出版社

本書『新たな集客に挑む！インバウンドBUSINESS』（日本観光振興協会）は、外国人旅行者への対応の多様な事例を紹介し、そのヒントを国内の観光産業はじめ広く産業界に提供し、産業連携によるインバウンド市場拡大の重要性を編集コンセプトとしている。PART-1では、今後の観光振興に重要な役割を担う、流通・飲食等を含む二十五の組織への取材で取り組み事例が紹介され、各組織のビジネスのポイントは参考になる。PART-2では、実際にお客様と接する際の基本が簡潔に表現され、PART-3は国・地域別に宗教・国民性等の留意すべきポイントを解説。イスラム教徒やベジタリアンが口にできない食材の記述は「食」の関係者に参考になる。PART-4資料編（付録CD-ROMに収録）のPOPやメニュー表作成のための四カ国語（英・韓・中〔簡体・繁体〕）のツールからは、受け入れ環境をより良くしたいという発行者の意図がうかがえる。（片桐）




B5判　180ページ
定価　1,300円
日本観光振興協会

### 利用状況

**ベストリーダー**（2012年4～8月）

当図書館への来館者によく閲覧されている本を紹介。

**【旅行ガイドブック部門】**

海外旅行では、

- 『地球の歩き方フランス2012-13』（ダイヤモンド・ビッグ社）
- 『地球の歩き方MOOKパリの歩き方2012-13』（同）
- 『るるぶフランス2012-13』（JTBパブリッシング）

国内旅行では、

- 『まっぷる秋田2013』（昭文社）

**【一般読み物部門】**

- 『日本の聖地ベスト100』（植島啓司著、集英社新書）
- 『LCCの使いかた』（イカロス出版）
- 『ろばのいる村』（西出真一郎著、作品社）

### 館長のつぶやき

日本政府観光局（JNTO）の方が来館。JNTOニューヨーク（NY）事務所60周年記念の記事のため、当時一体だったJTBのNY事務所とJNTO=JTA日本観光宣伝事務所の写真等の情報をお探しとのこと。社の50年史と70年史をご案内したが、後日倉庫より、社の米国法人の20年史と写真も見つかった。他にはない情報が、旅の図書館にならある、という蓄積の重要さ。東京、そしてNYで、インバウンド観光に従事した忙しい日々がよみがえった。

### 特別展示のご案内

## 東京駅からのまち歩き

**2012年10月1日（月）～2012年11月30日（金）**

2007年にキャッチフレーズ「東京駅が、街になる。」で始まった東京駅再開発事業が、2012年10月に一つの大きな節目を迎える。1914年に開業した東京駅丸の内駅舎（赤レンガ本駅舎）の保存『復原』がいよいよ完成するのだ。同駅舎の完成は「東京の玄関口が生まれ変わる」「東京に新しい風景が誕生する」「かつてないほどの規模で歴史的建造物が復元される」等のさまざまな意味合いを持つが、普段何げなく通り過ぎてしまう駅構内やその周辺をじっくりと探索する、またとない機会になるだろう。

本展では、「東京駅からのまち歩き」をキーワードに、東京駅とその周辺地域（丸の内、八重洲、日本橋等）の歴史、建築、街並み、宿泊施設等、さまざまな切り口から選んだ図書や稀覯（きこう）書を展示します（『鉄道と街・東京駅』（三島富士夫著、大正出版）、『東京駅の建築家 辰野金吾伝』（東秀紀著、講談社）、『大名小路から丸の内へ』（玉野惣次郎著、菱芸出版）等。ぜひ当館を訪れて「東京駅からのまち歩き」にお出掛けください。

＊詳細は、ホームページhttp://www.jtb.or.jp/旅の図書館・インフォメーションへ

## 公益財団法人　日本交通公社　出版物のご案内

**■地域の〝とがった〟に学ぶ インバウンド推進のツボ②**

昨年発行の『地域の〝とがった〟に学ぶ インバウンド推進のツボ』の続編。今回は主に資源の見つけ方や生かし方に関する〝とがった〟を中心に取り上げています。二〇一二年五月発行。

**■訪れるに値する価値を自ら創る**
**～今、求められるビジットデザイニング発想**

当財団主催「第二十二回旅行動向シンポジウム」採録集。シンポジウムでは、「インスブルック長期滞在の旅」という三十日間一カ所滞在型の旅行商品を成功させた㈱ワールド航空サービス・菊間潤吾社長、日本にキャニオニングという自然を生かした新しいアクティビティーを導入した㈱キャニオンズなどの事例から見えてくる時代の読み方、価値創造の知恵や発想の方法について、マーケティング・コンサルタントの谷口正和氏に解説していただきました。重要なのは、観光に関わる人ひとりが、人生という〝時間〟にもっともっと敏感になり、旅を通してすてきな時間の過ごし方や生き方を提示し、訪れるに値する価値を創り出す〝ビジットデザイニング〟発想です。二〇一二年六月発行。

**■マーケット・インサイト 2012（日本人海外旅行市場の動向）最新刊**

日本人海外旅行マーケットの構造的な変化とその要因を詳細に解説したレポート。二〇一一年の最新市場動向をカバー。当財団の独自調査を基に、変化の下に働く中・長期的ダイナミズムを明らかにしています。日本語版、英語版あり。二〇一二年七月発行。

**■自主研究レポート2011／2012**

当財団が自主事業の一環として取り組んでいる自主研究の成果をまとめた論文集。観光を取り巻く領域はさらに広がり、多様な観点からの議論が行われています。そうした流れを反映し、温泉地の住民意識を通して今後の温泉地の在り方を探る研究や、観光地を訪れた観光客の「感情」や満足度の調査を競争力の高い観光地づくりにつなげる研究など、新しいアプローチを試みた研究も収録。併せて当財団が主催する研修事業（セミナー、シンポジウム等）や出版・広報の概要についても紹介。二〇一二年八月発行。

※当財団出版物のご注文はホームページからお願いします。
担当：公益財団法人日本交通公社 観光文化事業部
電話 03・5255・6073 http://www.jtb.or.jp

## 次号予告

●観光地の競合環境のグローバル化が進む状況下、より効果的・効率的な観光施策を展開するために、科学的アプローチによる観光政策や観光地の状態の客観評価（指標の利用）が注目されています。持続可能性指標の活用については、海外を中心に研究と実践が重ねられてきていますが、国内での実績は皆無に等しいといえるでしょう。次号の特集では、その方法論を探り、有用性の検証を試みます。

## 当財団からのおしらせ

**「シンポジウム・セミナー開催のご案内」**

**●平成24年度 観光実践講座**

「人を活かし、まちを活かす観光の考え方～見えない価値を見せる『まち歩き』の実践」

**二〇一二年十一月八日（木）～九日（金）**

**会場：当財団大会議室（朝日生命大手町ビル17階）**

今年は各地で人気が高まる「まち歩き」に着目します。それは単に点から点への移動ではなく、ガイドさんとぶらぶら歩きながら地元の人と話し、食べ、笑う――その時間、その空間（まち）を楽しんでもらう観光です。特別講師に「長崎さるく博」「大阪あそ歩」（第4回観光庁長官表彰受賞）を仕掛けたプロデューサーの茶谷幸治氏を招き、また、住民主体の各地のまち歩き事例を取り上げます。〝見えない価値を見せる「まち歩き」〟の意味を一緒に考え、実践に役立つヒントをお持ち帰りください。「まち（都市）」限定ではなく中山間地にも応用できる内容です。詳しくは当財団ホームページへ。

**●第22回旅行動向シンポジウム**

**二〇一二年十二月十二日（水）午後**

**会場：フクラシア東京ステーション（朝日生命大手町ビル5階）**

二〇一三年の旅行マーケットの見通しを発表する年末恒例のシンポジウムです。テーマ等の詳細が決定しましたら当財団ホームページに掲載いたします。

当財団ホームページURL　http://www.jtb.or.jp/

## 編集後記

◆一月、四月、七月、十月の季刊誌としての改訂版「観光文化」第一号をお届けしました。

◆当財団がお付き合いさせていただいてきた地域の方々からのご寄稿やインタビューを通じて、地域活性化につながる概念とされる「観光まちづくり」「観光地づくり」について考察する特集にしました。「特集テーマからの視座」で研究調査部梅川が担当として考えを述べさせていただきました。今後、研究員が交代で担当分野から特集を組んでまいります。

◆「研究成果の紹介」では調査研究を通じて当財団研究員が知り得た知見の一部をご紹介、「JTBF通信　財団活動のいま…」では当財団の最近の活動状況をご紹介させていただきます。「旅の図書館掲示板」上で、新着本紹介に加え、旅専門の当館がどのように利用されているか、普段目に触れることのない稀（まれ）観本をご覧いただく特別展示（一カ月間）の企画等を紹介します。

◆表紙写真や「風致探訪」（次号以降に掲載）で写真家樋口健二氏に、レンズを通した各地の素晴らしい風景を文とともに紹介していただきます。連載Ⅰ「あの町この町」では、ドイツ文学者・エッセイスト池内紀氏が各地に足を運ばれる一歩一歩から見え感じたことを、歴史にも触れながら紹介していただきます。連載Ⅱ「ホスピタリティーの手触り」の旅行作家山口由美氏は、日本・世界各地を訪れて自身の感性から気づいたことや経験を通じて、人々にとっての心地よさにつながるヒントを示唆してくれます。（片桐）

観光文化215号やバックナンバーをPDFで閲覧できます。
URL：http://www.jtb.or.jp/publishing/index.php?content_id=5